

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071500247		
法人名	有限会社メディカルサービス有田		
事業所名(ユニット名)	グループホームゆりのき苑 Aユニット		
所在地	和歌山県有田市千田 403-1		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	平成22年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071500247&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成22年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑では、利用者一人ひとりが在宅生活での延長のようにその人らしく暮らしていけるよう、歴史から個性を理解し大切に、疾病や認知症など周りをとりまく障害を把握した上で、一人の人間として尊重し、楽しみや喜びを取り入れながら笑顔が多い生活を送り続けられるよう心がけています。利用者同士の支え合い・利用者と家族の支え合い・利用者と職員の支え合い・家族と職員の支え合い、また地域の方々の温厚な支えもあり、地域の方とは気軽な挨拶から障害を理解して配慮してくれている所もあり、利用者・家族・職員・地域の方がいる事で、ゆりのきという家全体が支えられていると感じています。そして、この安心できる関係性や環境を継続、もしくは現在より良くしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日常の会話から管理者と職員、また職員同士の関係のよさが窺うことができ、その良好な関係が利用者との関わりにも表れている。利用者を一人の人間として尊重し本人の希望や意思を第一に考え、楽しみや喜びある生活を送れるように日々努力している。また、重度化や終末期においても何度も家族や関係者等と十分に話し合いをもち信頼関係を築き、利用者が最期までホームで過ごせるよう職員が丸となって支援し、ケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域の一員としてその人らしく、「自由」「尊厳」「歓び」を盛り込んだ継続支援を重視した理念をつくっている。職員全員は日々取り組みの中、事業所理念の確認を重ねることで共有を深めており、サービスの向上につなげている。	地域密着型の意義をよく理解しており、事業所独自の理念である「自由」「尊厳」「歓び」を常に意識し、日々の利用者との関わりの中で職員同士共有、確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれたホームを目指し、日常的に散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。また、自治会加入はもちろんのこと、小学校の運動会やカラオケ大会など地域の行事には積極的に参加し、人々との交流を深めている。	地域との関わりを重視しており、自治会加入はもちろんのこと、地域の行事にも一世帯として活動している。また、小学校の運動会に参加したり中高生の職場体験の受け入れも行っており、学生たちとの関わりを利用者は楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者と職員は事業所での実践内容を踏まえて、地域の交流時には利用者のプライバシーに十分配慮し認知症ケアの啓発に努めている。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れにも積極的に行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は余り開催できてはいないが、地区の代表者、利用者の家族、市職員の方々と情報交換は密に行っている。	今年度は一度だけの開催になっており、自治会会長、市の職員、家族が参加し、避難訓練についての報告等を行っている。	運営推進会議は地域の人たちとの情報交換の場であり、地域の理解や支援を今以上に得るためにも定期的に開催することが望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	苑の状況や各利用者の状況を報告し助言を受けたりし、情報交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。	週に一度は市役所を訪問し、利用者の様子を報告し助言を頂いたり、利用者の支援についても相談にのって頂いている。また行事案内やホームの空きが出来たときにも報告をし、常に連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮し自由な暮らしを支えるようにしている。	身体拘束の研修は外部から講師を招き行っており、職員はよく理解している。また日中は玄関の施錠はせず、夏場はドアも開放しており、自由に出入りすることが出来るようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。また外部の高齢者虐待防止の研修に参加している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は機会あるごとに職員への説明を行っている。成年後見制度に関しては、地域包括支援センターの職員を招いて勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしている。また、外部の権利擁護に関する研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改訂等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時や電話をかけたとき等に、何か要望や不満はないか意見を出してもらえよう働きかけ、出てきた意見を運営に反映させている。	家族がホームに来られたときや、電話をしたときなどに意見を伺い、サービスの質を向上する為にもそれらの意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員全員でのミーティング及び会議を開催し、意見の収集をし反映をしている。	各ユニットで出た意見は計画作成者がまとめ管理者に報告したり、意見交換ノートを活用して職員が意見を出しやすいような体制作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスにならぬよう勤務シフトを作成している。 資格取得に向けた支援もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加には順次行っており、内部研修も随時開催し、サービスの質の向上が図れるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入し、研修へ参加することにより交流を図り、ケアに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、また、入所前見学にて職員・利用者の方々と交流を持ってもらい、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくりと話を聞くようにしている。話を聞くことで落ち着いてもらい、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活上で料理、裁縫、畑仕事等利用者の個々の得意分野を発揮してもらえるような場の提供を心がけている。季節の行事の仕方、言い伝え、昔の知恵を授けてもらう等、学ぶ事も多く、共に支え合える関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を、毎月1回「ゆりのき通信」を発行し報告するとともに、暮らしぶりや行事等についても写真やコメントをつけて報告し家族との関係が途切れないように留意している。来苑時は、本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けている利用者や、故郷への思い入れが強い利用者には、共に故郷へと行き雰囲気や思い出を味わい感じてもらう等、一人ひとりの習慣や思いを尊重している。	面会時間を決めずにいつでも訪問してもらえる体制をとっており、家族や老人クラブの方等多くの方が訪問されている。また通いながれた美容室にいかれたり、歌の好きな人には市民会館へコンサートに行く機会を設けたりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、すべての職員が共有できるようにしている。そして、みんなで楽しく過ごす時間や気の合うもの同士で過ごせる場面づくりをする等、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者とその家族に、いつでも遊びに来てもらえるよう季節たよりを送り、事業所に来てもらったりしている。他の事業所へ移られた方には、利用者と一緒に遊びに行ったり、遊びに来てもらう等継続的な付き合いができるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の毎日の表情・言動を観察し、記録して希望や要望を把握するように努めている。	本人や家族の希望や意向を聞き、その人らしい暮らしが続けられるように支援している。また日々の関わりのなかで発した言葉を受け止め、毎日記録し、それらを見直しサービスに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートにより把握したり、暮らしの中での会話、家族よりの聞き取り等にて収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント・ケース記録・モニタリングの活用にて把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望・意思を第一に尊重し、家族の希望や意向を反映し、またケアカンファレンス会議での意見を参考にして介護計画を作成している。	介護計画作成には利用者と家族の意見を反映させ個別介護計画を作成している。また、それに基づきモニタリングも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り帳・毎朝の申し送りの実施により、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状況に応じて、通院や外出等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの職員と交流を持つことで、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医療機関等を優先に、受診できるよう支援している。	二週間に一度医師が定期的に往診があり、急病時には往診や電話対応を受けている。歯科や眼科についてはその都度家族に連絡を取り、希望の病院を受診出来るように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各医療機関の看護師等への相談を随時行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、医療機関の医師・看護師・相談員等と連絡は密に情報交換し、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化・終末期の対応があることを説明している。本人をとりまく関係者との話し合いは密に行っており方針は共有している。主治医・看護師・薬剤師等多職種に終末期の対応ができるよう態勢を取っている。他のユニットに置いて終末期ケアの実践があり、職員も勉強になった。	重度化・終末期については、利用者や関係者と何度も話し合いを持ち、ホームで何処まで看取れるかを家族・医師とも連携をとりチームで支援に取り組んでいる。また、今までにホームで終末期のケアを行った経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えていないが、応急手当の勉強会や外部研修にて、体験・体得・習得するようにしている。急変時の対応については、連絡体制を掲示、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回だが、利用者と共に避難訓練を行っている。近隣、民生委員の方にも協力をお願いしている。	消防署の立会いの下、地区の非難訓練に利用者と参加している。また、11月にはホームで水害対策の訓練を予定している。民生委員・役場職員が近所に居り何時でも協力が得られる関係ができている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を損なわないように声掛けには十分に配慮し、自己決定をしやすい言葉掛けをするように努めている。	利用者の自尊心を損なわないように声掛けには充分気を配っている。個人情報や介護記録などは決められた場所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を自由に表現できるように個別に対応し、会話の中から自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせて対応を心がけている。その日・その時の体調に配慮しながら、本人に希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みのスタイルを把握し、自己決定がしにくい方には一緒に考えて、本人の気持ちにそった支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備等を一緒に行い、食事への楽しみとしている。季節行事を取り入れている。	調理をされる方は1、2名ではあるが利用者の出来る事は、体調を窺いながら行ってもらえるように支援している。献立には地域の名物であるなれ寿司や、いわし寿司、茶粥などがあり、ホームで育てた野菜や果物も提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と1日の摂取量を把握している。個別に主治医より高カロリー補助食品を出してもらっている方もいるが、これだけに頼らず、嗜好品や食べやすい物等でいろいろと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声掛け見守りをし、できない方に関しては、口の中を他人に触られる気持ちに配慮しつつ毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止等にも努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中等は、おむつはなるべく使用しないように、排泄チェック表を使用し、各利用者の排泄リズムにあわせて誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄リズムを把握しトイレに誘導している。トイレの声掛けや、排泄の失敗時の声掛けには充分に気をつけ、羞恥心への配慮を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入所者においては、主治医と相談し指示を仰いでいる。水分摂取等に注意を払い、便秘に良い飲食物も提供、または散歩や体操も促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望日、時間帯に入浴できるよう支援している。	一人で入浴できる方にはいつでも入浴できるように準備している。毎日入る方や体調に合わせて週に何回か入る方など、利用者一人ひとりに合わせた個々の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく規則正しい生活リズムが取れるよう支援しているが、利用者の希望・習慣等を配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	援助確認表・服薬管理ノート・申し送りノートにより把握し支援している。疑問点あれば、医師・薬剤師にはいつでも連絡が取れる態勢があり相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や特技等を活かして、生活上での役割が楽しみとなるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望にそって外出する場合や、日常の買い物へ一緒に行っている。また、利用者の楽しみごとに合わせて、外食やお弁当を持って季節の花を見に行ったりして外出の機会をつくっている。	毎日利用者と一緒に買い物に出かけている。季節によって様々な花を見にお弁当を持って出掛けたり、また外食でファーストフード店を利用する事もある。入居前に居た地域が懐かしみ、職員と共に訪問する事もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に合わせた金銭管理を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い・年賀はがきを提供し投函の支援をしている。公衆電話を設置いつでも掛けることができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かるように、利用者と一緒に月のカレンダーを作成してもらい飾っている。季節行事の飾り付け等積極的に行っている。	居間には季節の花や行事の飾りが置かれており、窓外にも季節の花や果物が実り季節を感じることができる。はき出しの窓からは陽光が入り明るい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓・ソファを置いてあり、あまり広くはないが気の合った入所者同士が共有空間において、自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物や、好みの物を思いのままに使用してもらい、居心地の良さを配慮している。	居室は、利用者が使い慣れたものや好みの物を使い、居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用の空間には、身体状況に合わせ、手摺りの設置や物の配置等環境整備に努めている。また、居室やトイレは分かる力を見極めて、必要な目印をつけており、事故防止と共に自立した生活ができるよう配慮している。		